

## 第5次蟹江町総合計画（前期基本計画）振り返りシート

分野1 子育て・健康・福祉

分野・単位施策	計画期間中できたこと・成果	積み残した課題・新たに対応が必要なこと
1-1 子育て包括支援 単位施策2 子育て支援 単位施策3 児童虐待の防止	<p><b>■こども家庭センターの創設（母子保健+児童福祉）</b>            令和6年4月こども家庭課編成し、新たにこども家庭センターを創設した。            母子保健機能と児童福祉機能を1つの課で対応できる体制を整えたことで、妊娠前から妊娠期・子育て期・学齢期に渡り切れ目ない支援ができるようになった。            そのため、複雑化するケースに迅速に対応できるようになった。</p>	
1-3 高齢者福祉 単位施策2 介護の充実、介護予防、介護人材育成 (2) 介護予防の推進		<p><b>■高齢化の進行に備えた介護予防</b>            団塊の世代が後期高齢者に入る 2025 年問題や団塊ジュニア世代が高齢者世代になる 2040 年問題を見据えた、医療費や介護給付費の増大に対する対応策の1つとして、介護予防事業や高齢者の生きがい活動がより一層重要となってくる。</p>
1-5 地域福祉・生活困窮対策 単位施策1 社会福祉の推進		<p><b>■重層的支援の必要性</b>            町に寄せられる問題が年々複雑化・多様化している。課を横断し、重層的包括的に対応できる体制を整えていく必要がある。</p>
単位施策3 虐待防止・権利擁護・成年後見人制度 (3) 成年後見人制度の利用促進	<p><b>■海部南部権利擁護センターの立ち上げ</b>            令和3年1月、判断能力が落ちた方の日常生活や財産、権利を守るための専門的な機関として、海部南部権利擁護センターを弥富市・飛島村と共同で立ち上げた。            認知症があっても、障がいがあっても、自分らしく地域で暮らしていけるようサポートできる体制が整った。</p>	

分野2 教育・文化

分野・単位施策	計画期間中できたこと・成果	積み残した課題・新たに対応が必要なこと
2-1 学校教育 単位施策1 教育内容の充実 (1) 学校の教育力の向上	<b>■スクールソーシャルワーカーの配置</b> ソフト面では、学校教育の中で配慮が必要な児童生徒及びその家庭が増加する状況の中で、適切な指導や支援が行えるように、これまで町独自の支援として加配対応していたスクールサポーターに加え、スクールソーシャルワーカーの配置し、児童生徒及び保護者の支援、教員の負担軽減ができ体制強化に努めることができた。	
単位施策2 教育環境の充実	<b>■教育環境の整備</b> 多くの教育施設がある中、現場からあがる要望について、その必要性の確認と検討を行ないながら、これまでに児童生徒へのタブレットの配備をはじめとする学校教育のICT化、トイレの洋式化、屋根防水及び空調設備工事などの大規模事業を行うことができ、必要とする環境を整えることができた。	
2-2 生涯学習 単位施策1 生涯学習機会・推進体制の充実 (1) 生涯学習機会の充実		<b>■生涯学習事業内容の見直し</b> 生涯学習課の事業については、継続的に行っている事業が多くある中、その必要性和集客等を考慮し、住民にニーズにあった内容に精査する必要がある。
2-3 歴史文化の継承 単位施策2 歴史文化資源の活用 (2) 文化財の保存活用の推進		
		<b>■舟入小学校の存続</b> 舟入小学校の児童数の推移を確認しながら、今後の検討が必要となる。 (令和13年度から発生する「複式学級※」に対する検討) ※2つ以上の学年を1つの学級編成とすること(2学年で14人) ・小規模のメリット：目が行き届く、異学年交流、個別活動の設定がしやすい ・小規模のデメリット：授業に制約がでる、人間関係の逃げ場、活動制限 ・今後の新入生：令和11年度5人、12年度5人、13年度2人(12月19日現在)

分野3 環境・安全

分野・単位施策	計画期間中できたこと・成果	積み残した課題・新たに対応が必要なこと
3-3 上下水道 単位施策1 上水道		<p><b>■水道料金の見直しと老朽化施設の更新</b> 水道料金の収入減少が懸念される中、計画的な料金水準の見直しが必要となる。 また、老朽化した施設がまだ多く存在しているので、引き続き計画的な施設更新に努める必要。</p>
単位施策2 下水道・生活雑排水処理 (1) 公共下水道の整備	<p><b>■計画的な下水道の整備</b> 平成15年より市街化区域を中心に下水道整備を計画的に推進し、普及率の向上に努めた。 下水道整備により、生活環境の改善に努めた。</p>	
3-4 消防・救急 単位施策1 消防・救急	<p><b>■指令の共同運用</b> 海部地方5消防本部で指令の共同運用を行っているが、令和7年度からは名古屋市を含む8消防本部で実施することにより、災害情報が一元化し、応援体制の充実など災害対応能力が更に強化できた。</p>	<p><b>■救急車の適正利用の周知</b> 救急の出動件数は、目標値を大きく上回っている。新型コロナウイルスの感染拡大により増加したとも考えられるが、5類移行後も増加傾向であるため、救急車の適正利用について積極的にPRする必要がある。</p>
3-5 防災・危機管理 単位施策2 防災・危機管理体制の強化	<p><b>■防災訓練や災害時支援協定等</b> 町民・地域における防災力の向上 災害支援協定を締結している事業者と災害時の対応について、検討を継続している。 自主防災会等が企画する防災訓練・防災学習会等を積極的に支援することができた。</p>	
		<p><b>■防災DX</b> 災害に備えたまちづくりの推進 避難所において避難者名簿にマイナンバーカードを用いて作成する。防災DXとして活用する。</p>

分野4 都市基盤・産業

分野・単位施策	計画期間中できたこと・成果	積み残した課題・新たに対応が必要なこと
4-1 道路 単位施策2 生活道路の整備 (1) 地域間をつなぐ道路の整備		<b>■立体交差等の大規模事業</b> 立体交差化事業などの大規模事業を町単独で実施することは非常に困難である。事業自体の見直しや国、県からの支援等を要望していくことが必要である。
4-3 市街地整備・住環境 単位施策2 良好な市街地の形成 (2) 新市街地の整備	<b>■近鉄富吉駅の計画的な整備</b> 近鉄富吉駅南地区において土地区画整理事業による基盤整備を目的に、令和5年度に市街化編入をおこなった。引き続き計画的な新市街地整備を推進していく。	
4-7 商業・サービス業	<b>■プレミアム商品券による経済活性化</b> コロナ渦による国の事業者支援等及びプレミアム商品券を実施したことによる町内の消費喚起による町内の経済活性化につながった。	
4-8 観光・シティプロモーション 単位施策1:観光施設・資源の魅力向上	<b>■蟹江川河川空間の整備</b> 「蟹江川かわまちづくり計画(平成31年3月8日登録)」に基づき実施した須成地区の護岸整備等が完了し、河川空間の魅力が向上した。 また、蟹江川かわまちづくりによる河川整備と舟巡りを絡め、祭人と連携することで賑わいを創出し、町内誘客が図られた。	
		<b>■まちの賑わい創出</b> 須成まつり当日はすごい賑わいをみせるが、日常的な賑わいはまだない。行政だけでは難しく、祭人の舟めぐりや町内事業者の協力を得て、さらなる賑わいを創出したい。

分野5 行財政・共生 「みんなで取り組む」元気なまちづくり

分野・単位施策	計画期間中できたこと・成果	積み残した課題・新たに対応が必要なこと
<p>5-2 共生社会の推進 基本施策2 多文化共生社会の形成</p>	<p>■外国籍住民の増加 町内在住外国人が2,000人を超え、町内で就労されている方も増加している。 K I F Aの活動により、国際交流が盛ん。川崎先生によるこども日本語教室。 マリオン交流等。</p>	<p>■外国籍住民の支援 外国人と町民のコミュニケーションが取れる取り組みが必要課題。 各団体の協力を得ながら実施していきたい。</p>
<p>5-3 行財政・共生 単位施策2 行政の効率化・高度化</p>		<p>■業務のDX化 ICT導入により、業務効率化を推進しているところであるが、業務担当課によって利用状況に差が生じているため、今後もシステムを利用しやすい環境整備の検討や情報発信を行っていく。業務担当課においては、日々の業務に問題意識を持ち、見直し改善することで、最良のデジタル技術を導入することができる。今後も引き続き、職員の手作業が残存する業務量の把握、具体的な作業フローといった現業業務の見直しを行う必要がある。</p>
<p>単位施策4 健全な財政運営</p>	<p>■公共施設の長寿命化対策 公共施設の適正管理では、令和2年度に公共施設個別施設計画を策定し、令和3年度に公共施設等総合管理計画及び公共施設個別施設計画の一部を改正し、令和3年度から公共施設の長寿命化対策事業を実施している。 令和4年度：庁舎屋根防水及び外壁改修事業 令和5年度：図書館空調設備改修事業、蟹江小学校中校舎屋上防水改修工事</p>	